

私たちは佐潟で何を残すのか

NPO 法人 新潟水辺の会 加藤 功

◆ラムサール条約登録湿地になって 25 年の佐潟

昨年(2020)年、新川が開削されて 200 年の節目の年でした。200 年前の西蒲原には鎧潟を始め大小 48 の潟があったと言われています。今残っているのは、仁箇堤、上堰潟、佐潟、御手洗潟などの 6 潟があるのみで、他の潟や池は干拓されて水田になっています。

江戸中期まで越後平野の河川の出口は、岩船の荒川と信濃川のみでした。沿岸部は、角田浜から瀬波に至る延長 70km にも達する砂丘が連なっていたため、砂丘内部に淡水性の無数の潟を作り出していました。これが、江戸時代になり、開田のため干拓の対象となりました。

佐潟が干拓されなかったのは、下流の水田地帯のため池の役割を果たしてきたからです。また潟は漁業にも使われ、ハスやヒシやレンコン、ヨシの採取が 40 年ほど前まであり、潟の生業が成り立っていました。

この佐潟は、1996 年 3 月に国内 10 番目のラムサール条約湿地として登録され、それから 25 年となります。

その後 1998 年 5 月佐潟湿地センターを開設、「佐潟通信」が発行を続け 72 号を数えています。そこには生命あふれる鳥や植物が写真と共に紹介されています。多くは角田山を背景に、潟の水面にはハスの花やオニバスの写真もありました。当時の記録を読むと、湖面を覆いつくすハスにより水鳥の離着水が出来ないので、一部を刈り取るべきとの話も出ています。また、1982 年新潟市教育委員会発行の「佐潟の自然」には、湖面に広がるオニバスの写真もあります。



佐潟とオニバス

◆数年前にオニバスとハスが消えた佐潟

だが 20 数年経った今はどうでしょう。新潟市が 2015 年作成したビデオ映像～「潟」の記憶一潟と共に生きる人々の物語～の撮影以降、佐潟のハスは減少し、2017 年にはハスもヒシも確認出来なくなり、2018 年にはアオコで青みがかった湖面だけが広がり、岸边にはアオコが漂い、風の弱い夏場は臭いが気になる程になっています。



2015 年 7 月、湖面に広がるハス

2018 年 6 月、何もなくアオコの佐潟

◆アオコは佐潟の悲鳴

私は水質の専門家ではありませんが、新潟市で実施している測定の数値を見る限り佐潟は、全国的にも湖沼のワースト 5 に確実に入っています。

かつての佐潟は「潟普請」や「掻き上げ」等の管理や内水面漁業など環境が保全され、生物の多様性も維持されてきましたが近年では漁業が下火になり、人々は次第に潟に踏み入らなくなっています。

戦後まで続いていた潟端の水田が耕作されなくなり、跡地が陸地化して行く一方で、佐潟の水源地でもある砂丘地の農業では、すいか、ねぎ、だいこん、葉たばこなどの栽培が盛んになりました。そこでは有機肥料から化学肥料に代わると大量の窒素が地下に浸透し、深刻な地下水汚染と水質悪化の一因になったと思われます。

アオコ発生はいつからあったのかを調べてみると、16 年前の 2005 年にはもう発生していました。

水質悪化によりアオコが拡散し、佐潟のハスが全滅したのかと問われると、違うと思っています。それは隣の御手洗潟水質は佐潟以上に悪いのに、御手洗潟のハスは毎年大きな花を咲かせていることより、複合的な要因が複雑に絡み合ってもたらされていると考えています。

オニバスやハスが生えないから佐潟がどうしたのかと問われるかも知れませんが、私にはアオコ発生が佐潟の悲鳴に聞こえてきます。この悲鳴が続くと、佐潟は本当に立ち直れなくなって来るように思えてなりません。

私たち人間の営みの変化が佐潟の自然環境を少しずつ壊し、その結果がアオコ発生につながったと言わざるを得ません。

◆環境データの記録と将来への解析

かつての福島潟は、舟の通行に支障をきたすほど湖面にオニバスの葉が広がっていたそうです。だが、その後の干拓事業や環境の変化により激減し、昭和 40 年代には姿を消しました。昭和 63 年に再発見されたオニバスを、旧豊栄市が保護増殖活動として取り組み、今では夏の福島潟では欠かせない花となっています。

現在、下潟で種子からハスの栽培の試みを行った処、良い結果が出始めたことより、それを地域、学校へと活動が広がっています。これと並行し、オニバスやハスが無くなって行った際の過程の検証を、環境データと写真、空撮などの記録を使い、後世のために解析してゆく事が求められているのではないのでしょうか。

ハスのあった時と無くなってからの空撮映像を下記の URL から、あなたの目でその違いを確かめて見てください。私たち新潟人は、佐潟の何を残すのかが問われています。



https://www.youtube.com/watch?v=K_OMmCDMftU